

【様式①】令和6年度 学校評価書(小・中・特別支援)

学校名 岐阜市立鏡島小学校

校長名 春日井 恵子

市の重点課題	学校の重点項目	自己評価	達成状況	学校関係者評価委員会から	改善の方向
希望あふれる未来を自ら拓く力を育むための教育課程の編成	・「地域鏡島の魅力」を掘り起こし、年間カリキュラムに位置付ける。「鏡島の魅力再発見」をキーワードに、人材バンクを活用しながら、より探究的で、協働的な地域学習：「ぎふMIRAI's」を推進していく。 ・タブレット活用を充実させ、学力向上に結び付ける。また、委員会・クラブ・学校行事など、その他活動においても、タブレットを活用して考えを発信し、自主的・創造的な活動を推進していく。	A	・総合的な学習の時間で、付けたい資質・能力を明確にし、「鏡島地区の魅力」の再認識・発信を年間カリキュラムに位置つけた。また、150周年事業を引き継ぎ、新しく、市岐商生から学ぶ場を設定したり、学びから、自分たちで企画・運営のノウハウなどへつなげたりして、地域とともに学びを発展させることができた。 ・ICT教育では、ロイロノートの積極的活用を推めた。授業や委員会活動報告等をタブレットで制作し情報配信したり、互いの考えを交流し深めたりする姿が見られた。また、英語教育においても積極的なICT活用の実践を重ねることで、主体的な英語活用で自己表現したり、仲間との交流につなげたりできた。	・150周年行事を通して地域の方々関わった経験から、今年度への「学び」につながっていることが評価できる。特に高学年の児童が創造的な活動を作り出しているという自ら発信する主体性が素晴らしい。 ・ICT教育の推進により、タブレット端末が文房具として全校児童に定着している。同時に、「書く力」の育成についても授業や諸活動において配慮されている。委員会や諸係からの発信が周知できるために、動画等を利用して活発に行われている。	・「地域鏡島の魅力」を各学年の年間カリキュラムに位置付け、「鏡島の魅力伝承」をキーワードに探究的で、協働的な地域学習をより充実させる。 ・教科での教育効果が高まるタブレット活用を継続する。委員会・クラブ・学校行事など、授業外での活動も、自主性や創造性を発揮する場として、精査しながら推進していく。
コミュニティ・スクールの機能の充実と岐阜市型小中一貫教育の推進	・支援推進委員会「学習支援部会」「PTA」、「おやボラ鏡島」等と連携して、ボランティア支援員を募り、ぎふMIRAI's他、諸活動における安全確保に加え様々な活動を推進していく。 また、児童と地域の積極的な交流により、「地域とともに学ぶ」という意識を育成する。 ・小中合同の交流活動等や、市岐商との交流を行いながら、一貫教育を推進し、自分達発信の体験を積み重ね、自己肯定感有用感を育む。	B	・「地域ふれあいの日」を設定し、風作り、岐阜空襲、水防教室、DIGなどを地域の講師及びボランティア支援員から学ぶ体験を通して、地域との関わりを深めた。また地域行事では、クラブ活動の発表の場として発信することにつながった。今後、支援推進委員会と連携し促進させる。 ・幼保小、小中児童会と生徒会の連携を活発にして、互いの願い・活動をリンクさせ、途切れない教育過程に結び付けていく。	・地域の諸団体との連携により、多くの児童が自分たちで考える防災や、高齢者とのかわり方あるいは、昔のあそびや戦争など多岐にわたった学びの場が設けられている。また鏡島地区の魅力を伝承していこうとする動きがある。今年度は高校生との交流もあり、さらに子どもたちの力に期待できる。 ・精華中校区の連携を授業参観のみではなく、子どもたちの日常の活動においてもできるとよい。	・支援推進委員の「学び部」中心に「PTA」、「おやボラ鏡島」等と連携を図る。年間を通してボランティア支援員を募り、ぎふMIRAI'sをはじめとして様々な活動を推進していく。 ・子どもたちの校内におけるあいさつ運動を、保護者や地域の方に発信していき、地域全体で大人からの挨拶との相乗効果につなげる。 ・今年度3年生が市橋小と総合の時間で交流をおこなったので、その経験を他学年にも広げる。市岐商とは今後も、地域活動等で連携していく。
あたたかさとしがこがいにあふれる学校づくり	・職員研修(体制・人材確保・態勢・力量アップ・豊かな人間性の醸成等の共通理解と声をかけあう集団作り)を通して、風通しの良い職場ややりがいのある職場を実現する。 ・以下に基づき働き方改革と自己研鑽の両立を図る。 ①時間外勤務月平均40時間未満・リフレッシュデー・年休取得の推進②ICTの積極活用による業務の効率化・個別指導の充実・情報共有	A	・具体例(場面・像)で職員研修(学習指導、生徒指導、保護者対応など)を行ったり、メンター制・OJTにつながる時間の確保を整えたりすることで、組織力が上がり、経験値に左右されない指導へとつながった。 ・教科担任制による教材準備、ICT活用・SSSの活用などハード面ソフト面において業務の軽減、さらに報・連・相により、素早い生徒指導、教育相談対応等により、時間外勤務月平均40時間未満達成につながった。年休取得、リフレッシュデーが浸透し、各職員がマネジメントできている。	・教科担任制による、教科の専門性を生かした授業が積極的に行われていると感じる。また、学年所属職員全員で、学年の児童を育てるという視点で、担任交流授業に取り組んだり、全校のいじめ対策をはじめ、生徒指導や、教育相談の時間を位置づけたたりすることで、人間関係を多くの大人と築け、子どもたちの安心につながっている。	・計画的に具体(場面・像)を想定した研修(学習指導、生徒指導、保護者対応など)を設定し、資質向上に努め、メンター制・OJTの推進で、全職員による指導体制の確立につなげる。 ・教科担任制や、交流授業の継続及び、ICT活用・SSSの活用などの推奨による業務の軽減やチーム学校による対応を進める。
災害、事故、感染症、生徒指導事案等に対する安全性の確保	・人権教育や道徳教育、いじめ防止の取組(いきいき鏡島っ子の日等)の継続推進、児童会・委員会活動による安心・安全な生活づくりにつながる活動から、「命の大切さ」や「いじめを許さない心」を醸成する。 ・見守り隊・防災教室・交通安全教室等の地域との活動など、積極的な情報提供を行うことで、保護者等との安心安全につなげる。	A	・地域の諸団体との連携で、実生活に密着した防災学習が実現した。また、親子で防災を考える機会となった。 ・道徳やアンコンシャスバイアスをはじめ人権に関わる教育の推進や「いきいき鏡島っ子の日」を毎月行う中で、「命の大切さやいじめを許さない心」を育てることができた。年間を通して互いのよさ見つけでは、その行動をする思いを想像することによって相手の思いを推し量る力の向上が安定した人間関係づくりにつながっている。	・アンコンシャスバイアスにかかわって人権の川柳を親子で考えたり、ここの「聞いてほしい」への素早い対応や「良さ見つけ」を年間取り組んだりすることで、相手を大切にしたいにもつながっているように感じる。 ・大人による見守りや地域活動が充実していることで、地域の大人と子どものつながりや安全な地域づくりにつながっている。また、地域の方による防災教室・交通安全教室等を積極的に設定できている。	・いじめ防止の取組(いきいき鏡島っ子の日等)の継続・職員研修を通して資質向上を図り、子どもたちの「いじめ根絶意識」向上や「人権感覚」育成につなげる。児童会・委員会の呼びかけやキャンペーン等を利用して、価値の共有化と意識向上につながる発信活動を進める。 ・防災教室・交通安全教室で実体験を通してルールの大切さや安心安全への意識向上につなげる。
教育環境と学校財務環境の整備及び効果的な活用	・老朽化している所は、安全点検を含め、事後修繕でなく、故障を見越しての修繕計画と要望活動を行うことでより安心・安全な環境を確保する。 ・ICT教育や総合的な学習の時間の探究活動等に効果的に必要な学習用具や機材等を計画的に購入し、学習環境を整えていく。 ・特別な配慮が必要な児童への環境整備を整えて最適な学びにつなげる。	A	・毎月の安全点検を通して、事前の危機管理及び早急対応による危険回避を行った、修繕等を校務員に依頼し状況によっては教育施設課へ要望書を提出し、安全な環境を確保している。 ・ICT教育や総合的な学習の時間の探究活動に効果的に必要な学習用具や教材等を計画的に購入し、学習環境を整えた。 ・特別な配慮や支援が必要な児童に対して、設備や学びの場の環境整備の充実ができた。	・保護者ボランティア「おやボラ鏡島」や、その他ボランティアの活動を活発にして、環境整備やより広義にわたる教育環境整備に生かしていきたい。ただ、人員不足が危惧される状況なので、積極的な呼びかけが必要である。 ・児童の活動がリアルタイムで掲示されていて、学校全体に生き生きさを感じる。	・確実な毎月の安全点検を行う。日常生活で見つけた故障や不具合は、速やかな報告および、対応することを徹底する。 ・老朽化が全体的にみられるため、普段から学校事故防止に対するアンテナを高くするための研修や情報交流を行う。故障を見越しての計画的修繕と要望を行う。 ・計画的な教材購入のために、定期的な情報発信や確認を行う。

HPアドレス：<https://gifu-city.schoolcms.net/kagashima-e/>